

第3回 土木と学校教育フォーラム  
(2011.7.30)

パネルディスカッション  
「土木と学校教育」

筑波大学大学院人間総合科学研究科 唐木清志

# 登壇者

---

## ▶ コーディネーター

- ▶ 唐木清志(筑波大学): 社会科教育, シティズンシップ教育

## ▶ パネリスト

- ▶ 近森幹夫(高知県四万十町立興津小学校): 防災教育
- ▶ 羽澄ゆり子(東京都多摩市立蓮光寺小学校): 川の学習
- ▶ 大宮英輝(静岡大学附属浜松小学校): MM教育

# 時間配分とパネリストの発表内容

---

- ▶ 15:45～16:00 全体説明(唐木)
- ▶ 16:00～16:10 防災教育について(近森)
- ▶ 16:10～16:20 川の学習について(羽澄)
- ▶ 16:20～16:30 MM教育について(大宮)
- ▶ 16:30～17:15 質疑応答・ディスカッション(参会者全員)

## ▶ 3名のパネリストにお願いした発表内容

1. 日々の授業で念頭に置いていることと実践との関連性
2. 実践することで得られた成果(子どもの変容)
3. 実践を進める上で感じた困難性
4. 土木の専門家及び実践者への要望

# 「土木と学校教育」を考える視点（1）

---

## 1. 土木素材の教材化

- ▶ 意義: 子どもの身近な土木素材（土砂災害, 川, バス交通）を教材化することで, 子どもの切実な学びを保証できる
- ▶ 課題: 土木素材を教材化する視点は必ずしも明確にされておらず, したがって, 学校教育に土木の視点を導入する試みは限定的にすぎない

## 2. 学習の場の拡大

- ▶ 意義: 教室から地域へと学習の場を拡大することで, 子どもの体験的な学びを保証できる
- ▶ 課題: 地域における体験的な学びには, 安全確保や資金的な問題で躊躇する教員が少なくない

## 「土木と学校教育」を考える視点（2）

---

### 3. 専門的な知識・技能の活用

- ▶ 意義: 専門的な知識・技能に基づくこと(活用すること)で、体験的な学びの充実が図られる
- ▶ 課題: 土木の専門家・実践者・団体等の協力なしには、土木と関連した学習を展開することは難しい

### 4. 「社会参画」の視点

- ▶ 意義: 持続可能な社会の形成に向け、積極的に社会に関与する子ども(市民)を育成することができる
- ▶ 課題: 「確かな学力」を育成するという観点からすれば、「生きる力」(=「社会参画力」)を育成しようとする「土木学習」が教員・一般市民にすんなりと受け入れられる保証はない

# 今後の「土木と学校教育」

---

## 1. 目標・内容・方法の明確化

- ▶ 目標: 土木教育(技術者養成)と「土木学習」(市民教育)
- ▶ 内容: 土木の「分野」と教科・領域の教育内容との関連性
- ▶ 方法: 教材や副読本の作成と、その「定期的な」更新

## 2. 情報の集約化

- ▶ 分散されている情報を集約し、教員の情報アクセスを支援

## 3. 協働化の推進

- ▶ 授業計画段階からの、教員と土木関係者の協働